



公益社団法人日本金属学会の組織と活動概況

公益社団法人日本金属学会は、『金属に関する理論ならびに工業の進歩発達をはかること』を目的とした学術団体として1937年2月14日に創設され、2013年3月1日には公益社団法人に移行しました。会員数は平成30年2月末時点で国内外合わせて5,095名、156団体で、金属及びその関連材料に関する研究成果を世界に発信する学会として活動を展開しています。近年は、社会基盤材料をはじめエネルギー材料、エコマテリアル、電子・情報材料、生体・福祉材料、材料と社会と対象分野も拡大し、金属及びその関連材料分野の学術および科学技術の振興を目的として、組織図に示すように、最高議決機関である「社員総会」、業務執行決定機関の「理事会」、業務監査機関の「監事」の下で、「委員会」、「支部」、「事務局」により、学術誌や学術図書の刊行、講演会や講習会の開催、調査・研究、表彰・奨励の事業を行っています。

刊行事業では、会員の情報交換や啓発・教育を目的として、会報「まてりあ」を毎月刊行し、会員に配布しています。また、和文の学術論文誌「日本金属学会誌」および、材料系14学協会と共同刊行している英文の学術論文誌「Materials Transactions」を毎月刊行して、研究成果を国内外に広く発信しています。「日本金属学会誌」では年間約80編の論文を、「Materials Transactions」では年間約300編の論文を掲載しています。さらに、金属及び関連材料に関する専門書や学生向けの教科書類等の「学術図書類」を刊行しています。

講演会・講習会事業では、最新の研究成果を発表・討議するとともに、会員間の交流を図ることを目的として、春秋2回の「講演大会」を開催しています。講演大会は約900件の講演があり、約1400名が参加しています。会場では企業の最新の技術を紹介する「機器展示」や「ランチョンセミナー」も実施しています。また、春期講演大会では、卓越した業績を挙げた者による「本多記念講演」や、学生の進路選択と企業の採用を支援することを目的とした「企業説明会」を開催しています。さらに、専門知識の普及や啓発、教育を目的として「セミナー・シンポジウム」や講習会を開催しています。また、国際会議もこれまでに25件を本会主催で開催して

ます。

調査・研究事業では、重要な企画、統治、長期展望に関する「企画委員会」、「セルフガバナンス委員会」、「長期展望委員会」が設置されています。また、関連が深い専門分野の研究者や技術者が集う6つの分科で構成された「調査研究委員会」の活動を推進しており、先端領域や学際的領域の研究課題に対する研究を促進する目的で「研究会」が設置されて活動しています。さらに、「戦略推進委員会」や「科研費委員会」では、金属及びその関連材料分野の学術及び科学技術の振興に向けた材料戦略活動を行なっています。一方、「人材育成委員会」では、次世代を担う人材を育成することを目的として、「出前講義」や「高校生向けホームページ」等の活動を行なっています。「男女共同参画委員会」では、女性の社会進出を支援するために、男女共同参画学協会連絡会との連携や鉄鋼協会合同男女共同参画委員会活動を実施しています。また、国外の学術団体との交流を推進している「国際学術交流委員会」では、World Materials Day Awardの授賞をはじめ、米国TMSとの講演大会へ研究者の相互派遣、韓国KIMとの共同シンポジウム開催等を実施しています。

表彰・奨励事業では、「名誉員」や「学会賞」を始めとして、優れた研究や技術開発の成果を上げた者や当該分野の発展に寄与した者の表彰や今後の貢献が期待される者の奨励を目的とした「各種賞」で、毎年20件の表彰・奨励を行っています。さらに、昨年「日本金属学会フェロー」を設けました。

全国の8支部も活発に活動しており、各支部で独自に講演会・講習会（講演大会、本多光太郎記念講演会、セミナー、談話会）、研究会、見学会などを実施しています。

日本金属学会は21世紀の日本を背負って立つ研究者や技術者の入会を大いに歓迎いたします。会報「まてりあ」は、会員のみを提供されます。さらに、会員には、講演大会への会員参加費での参加及び登壇費の免除、刊行物の会員価格での購入、本会主催のセミナー・シンポジウム・講演発表会等への会員割引価格の参加等の特典があります。

